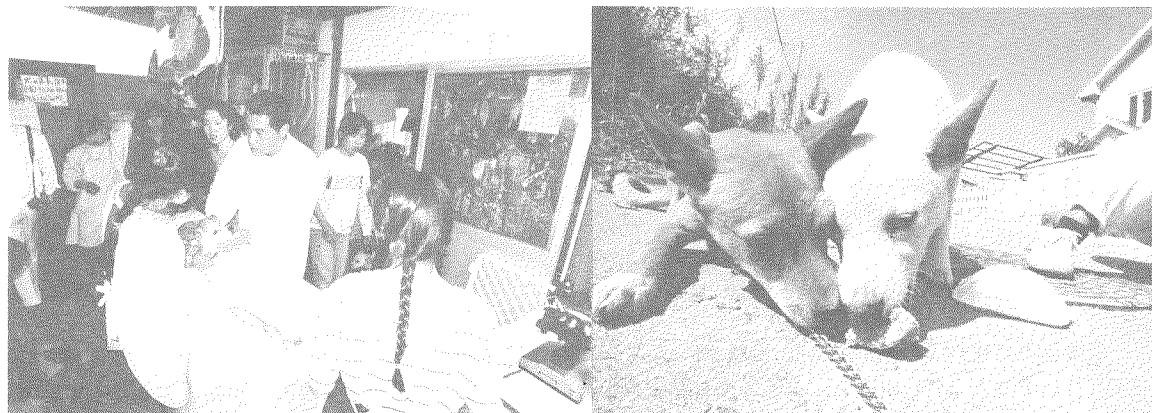


今年度4月から6月までの会計報告が整理できました。昨年度の会計はシステムが整っていなかったため整理するのにかなりの時間が必要になり、ご迷惑をお掛けしますが、内容はほぼ同じです。（出納帳・領収書は保管しています）

現在、被災動物を救う会では毎月約150万の運営資金を必要としています。固定的なものでは人件費があげられます。（別紙会計報告を参照ください）長期に渡ってまったく無償のボランティアをお願いすることはこれまでできませんでした。そのため、地元の職安を通してアルバイトの方をお願いしてきました。ARCの専従スタッフ2名もまたARCより専従費として月7万5千円援助していただいています。（現在ARCの霊仙用資金はなくなり、一般会計より支出されています）

こうした専従体制はこれまで動物救助では例のないことかもしれません。それによって始めてこれだけ多くの動物たちが救われたのだと思います。これが可能になったのはひとえにご支援くださったみなさんのおかげです。



流動的なものでは医療費・フード代・設備費・広報費などがあげられます。医療費は昨年秋から本年春にかけて寒くなるに従って健康を害する動物が増え治療費がかさみました。最近では病気が少なくなったことと、4月から県の援助が一頭につき1万5千円つくようになり負担も軽減してきました。そして、福岡市獣医師会開業者部会の全面的な協力により入院治療・治療費の免除・カンパなどによって負担が軽減しました。とはいえそれでも出費は高額になっています。

フード代は当初かなりかかっています。被災地のフード代だけでも最低50万は必要としています。特にスタート直後餌付けの時期にはチーズ・からあげなどを使用したため動物の捕獲に比例して資金がかさみました。その後、資金不足からフードのみとしたため、動物の捕獲もむずかしくなっていました。これまで、被災地の動物達は体が弱っているため嗜好性のよいドライキャットフードを与えています。12月からはペットフード興業会からフードの援助をしていただいています。しかし、毎月定期的というわけにはいかず、月に50万ということも珍しくありません。

被災動物を救う会の設備は大きく分けて犬舎・事務所・猫舎・小犬舎・隔離犬舎になります。それぞれ順次整えてきたものです。必要なものはあまりないように見えるかも知れませんが、備品だけでもかなりの費用を必要としています。この一ヶ月を例にとると、車の任意保健・車検・修理等で約20万、隔離犬舎約70万（水道工事代、電気工事代、フェンス代等含む）、階段や屋根の作成、里親探しのための写真・カラーコピー代10万など、そして周辺の畑を小犬が荒らすという苦情に対処するため新たにフェンスをめぐらす予定もあります。このようにおおざっぱな例示だけでも必要不可欠な出費は馬鹿になりません。

科 目	4 月	5 月	6 月	内 容
給料	591,000	526,250	577,250	
福利厚生費	7,000			電化製品
運賃		48,910	6,124	動物空輸費
車両費 I	12,148	76,920	22,728	ガソリン、修理、部品等
車両費 II	5,871	32,960		車検、点検整備
車両費 III		84,510		任意保健、税金
事務 広報費	9,504	39,819	215,165	カラーコピー、文房具、ファックス、振込手数料等
フード	88,117	177,059	161,226	
医療費（動物）	349,280	222,421	408,229	治療、ワクチン、不妊手術、入院、蛋捕り首輪等
修繕費	3200	129,314	20,570	日常発生する犬舎猫舎の修繕・製作費等
消耗品費	77,932	26,447	25,897	消毒・清掃用具・薬品、日用雑貨、補修雑貨等
水道光熱費		2,600	20,130	
調査費		800		土地図面閲覧料
通信費	37,246	75,254	63,002	電話、ファックス、郵送料等
交通費		28,140	15,920	通行料、駐車料、宿泊料
雑費	7,821	310,712	182,639	ペットシーツ、猫砂、クレーム関係費用、廃棄物処理手数料、他
合 計	1,189,119	1,782,121	1,718,880	

平成4年 6月30日現在 残金9,944,434/8月19日現在9,296,785